No.505

りんせい 林声

2026 1月号



がんばるおかやまの事業体、今回は合同会社バイオマスサプライを紹介します。
写真は新見市神郷下神代地内のストックヤードで、同地内のチップ工場で生産された木質バイオマスチップは、奥に見える合同会社新見バイオマスエナジーの発電所などに供給されます。

（詳細はＰ３に記載）

目　次

新年のごあいさつ …… 2
がんばるおかやまの事業体
（合同会社バイオマスサプライ） …… 3
森林環境譲与税の活用事例（奈義町）…… 4
普及指導区の情報（高梁普及指導区） …… 5
第58回 岡山県農林漁業功労者表彰受賞者の紹介 …. 6
山火事を起こさない！起こさせない！
～かけがえのない森林を守るために～ …… 7
ナラ枯れ被害とその対策について …… 7
森林研究所研究成果発表会の開催について …… 8
研究だより
「ＣＬＴの新たな分野での利用方法の検討」…… 9
技能講習情報 …… 10
林産物市況 …… 11
「おかやま森づくり県民税」情報発信の取組 …. 13
森林・林業施設の紹介「総社市役所新庁舎」‥ 14



©岡山県マスコット「ももっち・うらっち」

新年のごあいさつ

岡山県林業改良普及協会　会長
小野　泰弘



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、当会の運営につきましては、平素から格別のご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年は、全国各地で山火事が発生し、県内でも４８６㌶に及ぶ大きな被害がありました。早期復旧に向け、県内企業団体等からの寄付が多く寄せられ、今後、植樹行事や本格的な対策が進むと聞いております。

一方、本県のヒノキ丸太の生産量が３年ぶりに全国一位となったことが、令和６年木材統計において公表され、本県の森林・林業においても、明るいニュースになりました。

さて、近年の森林・林業を巡る状況は、戦後造成された人工林が本格的な利用期を迎える中、林業・木材産業を持続的に成長させていくため、国では、適切な伐採や再造林等による森林資源の適正な管理、新技術の活用等による生産性や安全性の抜本的な向上、国産材製品の競争力強化などが推進されており、森林・林業・木材産業による「グリーン成長」を実現していくことで、２０５０年カーボンニュートラルに寄与することとされています。

また、県では昨年３月に、森林・林業のあるべき姿や施策の基本方針等を盛り込んだ「21おかやま森林・林業ビジョン」の見直しがあり、重点施策に「確実な再造林の推進」が追加され、伐採と再造林の連携や低コスト造林の推進、林業従事者を確保するために働きやすい環境づくり等に積極的に取り組むこととされています。

県内の市町村では、森林経営管理制度や森林環境譲与税を活用した、間伐などの森林整備に取り組まれており、森林の公益的機能の維持・増進などに努められています。

さらに、本年４月には改正森林経営管理法が施行され、新たな仕組みが加わることにより、更なる集積・集約化が進み、間伐などの森林整備に繋がることが期待されています。

こうした、国・県・市町村の施策を円滑に実施するため、本県では、制度の推進に向け、市町村との連携推進会議の開催や、市町村職員や林業経営体に向けた研修等を実施するなど、総合的な支援に取り組まれており、より実りのある成果をもたらすためには、県林業普及指導員が中心となって地域の関係者との情報の共有や課題の整理等が重要となってきます。

当会といたしましても、引き続き、機関誌「林声」の発行や林研グループの活動支援を行い、会員間での林業情報の共有を通して、地域の森林・林業関係者のネットワークづくりに貢献していくとともに、森林・林業の大切さをより広くＰＲしていく所存です。

最後に、会員の皆様にとりまして、新しい年が希望に満ち、実りの多い年となりますようご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

広葉樹特別市、開催。

JForest

◆岡山県森連では、この度『立春広葉樹特別市』を開催いたします。
皆様からの多数の出荷をお待ちしております!!

◆出荷先は新見木材共販所・津山木材共販所でも OK

横持ちに掛かる費用は
岡山県森連が負担します。

優良材の出荷状況など
HP・インスタにて
随時公開中

日時　令和８年２月19日(木)
開市　午前9時30分

場所　岡山県森林組合連合会
勝山木材共販所
真庭市勝山 1884-6

お問い合わせ　〒717-0013　真庭市勝山 1884-6
岡山県森林組合連合会 勝山木材共販所　TEL 0867-44-2691

がんばるおかやまの事業体
合同会社バイオマスサプライ

林業従事者の減少、木材価格の低迷から、材価が伐出経費に見合わず、間伐材を林内に放置する、いわゆる「伐（き）り捨て間伐」の材や、皆伐地でも材価が見込めない曲がった根元や細い木などは現地に残され、更新作業の妨げになったり、豪雨時に流出し下流に被害を起こすことが懸念されてきました。


伐り捨て間伐で林地内に残された伐木

一　会社の概要

合同会社バイオマスサプライは、地域の課題とされていた林地内の未利用資源をバイオマス発電のエネルギーとして供給することで、森林の再生と木質循環社会の形成を目指すことを目的に、新見市神郷に２０１６年に設立されました。

二　素材生産事業

同社には、木質バイオマス発電所の燃料となる木材を生産する素材生産事業部門があり、バイオマス発電エネルギーの供給先は、同社の隣地で２０２０年にＦＩＴ制度を活用し本格稼働開始した発電所、合同会社新見バイオマスエナジーとなっています。


新見バイオマスエナジー

ちなみに、ＦＩＴ制度とは「再生可能エネルギー固定価格買取制度」の略で、再生可能エネルギーで発電した電気を、電力会社が一定価格で買い取ることを国が約束する制度のことです。


フェラーバンチャーでの伐倒集積作業

素材生産事業部門は、従来型の人力によるきめ細かな伐木・集材から、高性能林業機械を用い、作業工程の短縮と少人数化による生産コストの削減にも取り組んでいます。また、トラック運搬が非効率な曲がり木や枝部等は、現地でチッパーによりチップ化して運搬しています。


チッパーでチップ化して運搬

三　加工製造事業

自社あるいは素材生産業者から原木を受け入れ、木質バイオマス発電所や温泉ボイラーの燃料となるチップを製造する神郷工場では、木質資源を余すところなく活用する木質循環社会の形成を目指しています。


木質バイオマス発電所用チップの製造

四　おわりに

同社では、よりよい森林を次代へ継承することを目指し、未利用材や間伐材からバイオマス燃料となる高品質な木質チップを製造していくとのことです。今後も地域に貢献いただくよう応援していきたいと思います。

（新見普及指導区　渡邊　康太郎）

森林環境譲与税の活用事例
奈義町の取組み
【勝英普及指導区】

一　はじめに

高い出生率で全国的に注目され「奇跡のまち」と言われる奈義町。平成24年に子育て応援宣言を行い、「子ども達は次代を担うかけがえのない存在」として「健康で心豊かなたくましい人を育てる」様々な取組が今に繋がっています。

森林についても、古くから林業が盛んな地域で、豊かな森林を守り育てて将来へ引き継ぐべく、その時々で必要となる取組を推進してきています。

平成16年には、台風に伴って日本三大悪風「広戸風」が発生し、人工林の約四分の一が風倒木の被害を受けましたが、当時の林業関係者の多大なご尽力により、そのほとんどが復旧されました。

また近年には、木材価格の低迷、物価高による生産コストの増加、担い手不足等により、森林所有者のモチベーションが失われつつある中、引き続き森林が適切に整備されるように、森林環境譲与税を活用した各種支援を進めています。


平成16年風倒木災害の状況

二　活用事例

最初の取組として、森林経営管理制度の円滑な推進を図る基盤を整備するため、航空レーザー計測による森林資源データと所有者情報等をＧＩＳ上で一元的に管理できるシステムを近隣市町とともに令和5年度までに構築しました。

令和6年度からは、森林組合など認定事業体や苗木生産事業者等で構成される「森林環境譲与税活用に関する関係者連絡調整会議」において、地域林業の課題解決に向けた意見や要望等を聞き取り、現場の実状に応じた施策に充てています。

①保育間伐等への支援

平成16年の風倒木被害の復旧で植栽されたスギ、ヒノキが成長し、保育間伐等が必要になっています。このため、造林補助事業の自己負担相当額を補助し、森林所有者の負担なく適期に手入れが行われるようにしています。


保育間伐後（平成16年植栽）

②コンテナ苗生産への支援

当町は西日本有数の山林用苗木の生産地であり、コンテナ苗の生産にもいち早く取り組んでいます。各地の人工林が主伐期を迎える中、伐採及び再造林を着実に進めて、林業のサイクルを循環させるには、コンテナ苗を安定的に生産、供給できる体制を整えておくことが肝心です。

こうした状況に応じて、コンテナ苗生産者による施設の整備増強を促進するため、既存の補助事業における自己負担額の二分の一を補助しています。


コンテナ苗の圃場
（背景は那岐山、標高1,255m）

三　おわりに

奈義町におけるこうした取組は、町内はもとより広く森林の整備や住民の生活に恩恵をもたらすものです。

今後の更なる有効活用に向けて、また、使途に対する町民等の理解醸成を図るため、勝英普及指導区では引き続き協力してまいります。

（勝英普及指導区　今西　史香）

普及指導区の情報

高梁地域の広葉樹施業を考える【高梁普及指導区】

一　はじめに

高梁地域は県北部のスギ・ヒノキ人工林地域と県南部の広葉樹林地域との中間に位置しています。高梁市は、人工林面積では県下市町村ランキングで6位ですが、天然林面積は1位となっています（岡山県の森林資源／令和7年3月）。ここで言う天然林とは、スギ、ヒノキ、マツなどの針葉樹を除いた残りの広葉樹林のことを指しています。

この地域の特色を活かし、広葉樹の利活用が進んできています。多くは企業による事業化された燃料生産ですが、シイタケ原木や薪材などの小規模な広葉樹伐採も当地域で行われています。

今回は、森林所有者、素材生産者の方向けに何点か話題提供したいと思います。

二　天然更新は期待できるか

スギ・ヒノキなどの針葉樹は一般に天然更新は期待できないため、人工植栽して再造林を行います。一方、広葉樹では天然更新（下種更新や萌芽更新など）が期待できます。樹種によっても異なりますが、一般に若齢木の方が萌芽する可能性が高いといわれています。また、萌芽更新できる回数は限られるようです。こう考えると、木材生産の際、皆伐で全部を収穫せず、有用広葉樹の母樹（種子の供給）を一定程度残しておいた方が、持続可能な森林経営につながると考えます。

三　伐採造林届出制度

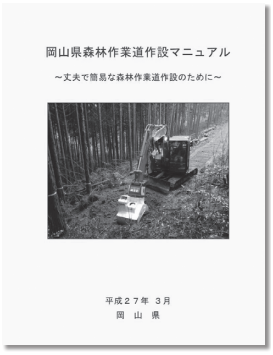
立木を伐採する際は、市に対し「事前の届出」が必要です。さらに「伐採及び伐採後の造林等」が完了したときも「事後の報告」が必要です。その際、伐採にかかる事項だけでなく、造林にかかる事項も記載が必要です。更新方法を天然更新（萌芽更新）とすることができますが、5年後に高木性の樹木で更新されていないと、高木性の樹木を植栽する必要が生じます。また、保安林であっても、事前に手続きすれば伐採可能ですが、伐採制限や植栽義務がある箇所もあるため、県事務所に御相談ください。

四　森林作業道の作設

伐り出した木材の搬出には森林作業道を利用することが多いと思います。この森林作業道を新設する場合も、市に前述の届出書を提出する必要があります。

森林作業道の作設基準は、県森林作業道作設マニュアルに沿ったものをお勧めします。この基準で作設するメリットは「丈夫で繰り返し使用できる」点です。搬出時のフォワーダ（不整地走行車）が利用するためだけでなく、更新後の育林時にも軽四トラックでの走行が可能となります。

なお、当基準に沿わない場合、盛土規制法（本誌№５０４号／令和7年11月号）の手続きが別途、必要になることも想定されますので御注意ください。



岡山県森林作業道作設マニュアル

五　おわりに

広葉樹は針葉樹と比べ多種多様です。私は広葉樹の識別が苦手で、勉強しようとしても、名前や特徴、材質を暗記するのは難しく、すぐに挫折してしまいます。

皆さんの山林にも有用・特用広葉樹があるかもしれません。春の花見のソメイヨシノも良いですが、遠目にみるヤマザクラが咲く山林の眺めも素晴らしく、一つの観光資源だと思います。

近年、全国的に広葉樹施業が見直されてきていると感じます。当指導区では御興味のある方を支援していきたいと思います。



高梁川本流渓畔林／春のヤマザクラ

（高梁普及指導区　山本　勝範）

第58回岡山県農林漁業功労者表彰受賞者の紹介

林業・木材産業の振興に尽力された方々の受賞が決定しました。心よりお喜び申し上げます。

（敬称略）

≪知事表彰【団体指導者部門】≫

小椋（おぐら）　美博（よしひろ）（鏡野町）



小椋　美博氏

小椋氏は、平成28年に作州かがみの森林組合代表理事組合長に就任され、主力事業である森林整備部門において、積極的に補助事業や請負事業に取り組むとともに、森林資源データ等最新技術を活用し、効率的な林業経営体制を確立されました。

また、令和5年度からは、鏡野町が整備した「鏡野町貯木場」の運営を受託し、岡山県森林組合連合会のサテライト共販や合板会社への直接販売を併用しながら、材質に合わせた有利な販売を実践した結果、木材取扱量が約4割増、運搬経費が15～20％の減となるなど、安定した黒字経営を維持し、組合員の経済的地位の向上に努められています。

さらには、令和6年度から鏡野町等と連携して森林由来のJ－クレジット創出の取り組みを始め、今後、企業からの金銭的支援による管理費の削減や間伐面積の増加を見込んでおり、また、森林組合の管理体制・技術を維持しながら、地域の自然及び森林の公益的機能の維持増進を図るなど、地域林業の振興に大きく貢献されています。

≪農林水産部長表彰【団体指導者部門】≫

森谷（もりたに）　豊（ゆたか）（美咲町）



森谷　豊氏

森谷氏は長年、久米郡森林組合の職員として手腕を発揮するとともに、令和元年からは代表理事組合長に就任され、経験から得た知見を生かしながら、造林補助事業、おかやまの森整備公社等からの請負事業に積極的に取り組み、直近3ヶ年の売上高営業利益率は、県内組合平均よりも高く、組合員の社会的、経済的地位の向上に努めてこられました。

森林所有者の山林経営への意欲が低下している中、施業集約化・主伐後の再造林が進んでいないことから、組合員に対して事業説明会を定期的に開催し、併せて「山の相談会」と銘打った個別相談会も実施されています。

また、林業の就業ガイダンスにおいて、就業希望者に対し、組合長自ら面談、住居等生活面もサポートするなど、積極的な作業員確保に尽力されています。

さらに、美咲町と連携した1日林業体験会（2回／年）、フォレストスクール（2日間／年）などを通じて、町民に対する森林・林業への理解促進を図るなど、地域林業の振興に大きく貢献されています。

受賞された皆様の、益々のご活躍をお祈り申し上げます。

（林政課　普及指導班）



山火事を起こさない！起こさせない！
～かけがえのない森林を守るために～

昨年３月23日に岡山市南区で発生した山火事は、玉野市を含む４８６㌶の森林を焼失させました。鎮火までに20日間を要し、記録の残る昭和40年以降で最大規模となりました。



岡山市南区で発生した山火事
(令和７年３月23日)

昨年は、本県以外でも、岩手県大船渡市で２月26日に、愛媛県今治市で本県と同じ３月23日に、大規模な山火事が相次ぎ発生し、大きな被害となりました。

これから空気が乾燥し、風の強い日も多く、山火事が発生しやすくなり、特に３月は山火事の多発する時期となっています。

県では、毎年３月を「山火事予防運動月間」と定め、市町村や消防機関等と連携して、チラシやメディアによる注意喚起、パトロール等により重点的に啓発活動を行っています。

山火事の発生原因は、たき火や枯れ草焼きなど、人の火の不始末によるものが大半であり、私達の心がけ次第で、多くの山火事は防ぐことができます。

○山火事を防ぐ６つのポイント
- 火入れや野焼きは一人でしない
- たき火の後始末は完全に行う
- 強風時や乾燥時には火を使わない
- 火入れは許可を受ける
- タバコの投げ捨てはしない
- 火遊びはしない、させない

森林は水源の涵養や土砂崩れの防止など私達の生活に、多くの恩恵をもたらしてくれており、ひとたび森林が失われると、その機能が回復するまでに、長い年月と労力を要します。

このかけがえのない森林を守っていくためにも、一人ひとりが山火事を起こさない、起こさせないよう注意し、こうした山火事が二度と起らないよう皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

（治山課　保全班）

ナラ枯れ被害とその対策について

一　ナラ枯れ被害の状況

岡山県では、平成21年度に初めてナラ枯れ被害が確認されて以来、県北部を中心に被害が拡大していましたが、近年は県南部地域にも拡大し、現在の被害区域はほぼ県内全域となっています。

令和７年10月時点の被害量は、県北部では減少傾向にあるものの、全県では約19千立方㍍（見込）となっています。過去最大であった令和２年度と比べると約６割に減少していますが、全国的には非常に高い水準にあります。



■：被害が確認された市町村
(R７.10時点)

二　ナラ枯れ対策

県では、令和２年度に定めた岡山県ナラ枯れ被害対策基本方針に基づき、市町村等関係機関と連携した総合的な被害対策を推進しています。具体的には、おかやま森づくり県民税を活用したナラ枯れ被害拡大防止総合対策事業等により、被害把握、予防対策、駆除対策及び関係機関との情報共有等を総合的に実施しています。

被害把握
被害木のヘリコプターによる航空探査、地上からの探査等

予防対策
薬剤の樹幹注入、カシノナガキクイムシ（病原菌の媒介昆虫）の生息密度を低減する誘引捕殺等

駆除対策
被害木の伐倒整理や薬剤処理等

関係機関との情報共有
地域連絡協議会

三　終わりに

ナラ枯れ被害は、地形や生育場所等から、全量駆除が難しい状況にあります。このため、限りある予算を効果的に活用していくためには、各地域において、倒木等により住民や施設に被害が及ぶ箇所、観光面で重要な景勝地など保全対象を検討・選択し、対策を講じることが重要です。

今後も市町村と協力しながら、地域の実情に応じた効果的な対策を推進してまいります。

（治山課　造林班）

令和7年度森林研究所「研究成果発表会」の開催について

岡山県農林水産総合センター森林研究所では、これまで取り組んできた研究の成果を森林・林業・木材産業の関係者をはじめ、多くの県民の皆様に分かりやすく紹介し、理解と関心を深めてもらうため、次のとおり研究成果発表会を開催します。

一　開催日時

令和8年2月6日（金）
13時から16時まで

二　場所

久米南町コミュニティセンター　ホール
（久米南町下弓削502―1）

三　内容

◇研究成果発表

①岡山県での造林に適した早生樹種の選抜
（阿部　剛俊　専門研究員）

②ヒノキ大径丸太内部における材質の変動
（野上　英孝　専門研究員）

③ＣＬＴの新たな分野での利用方法の検討
（道場　隆　専門研究員）

④ドローン空撮による山火事跡地調査
（牧本　卓史　専門研究員）

◇ポスター発表・普及資料の展示

試験研究課題の内容について、パネルでの説明・普及資料の展示を行います。

四　参加申込み

参加を希望される方は、令和8年1月30日（金）までに、左のＱＲコードによる申込みを行うか、森林研究所まで、電話、ＦＡＸ、メールにて連絡願います。（詳細は森林研究所ホームページ参照）

なお、申込みの際には氏名、電話番号、メールアドレスをお知らせください。

【申込先】

岡山県農林水産総合センター森林研究所（勝田郡勝央町植月中）
ＴＥＬ　0868-38-3153
ＦＡＸ　0868-38-3152
メール　ringyo@pref.okayama.lg.jp
ホームページ　https://apply.e-tumo.jp/pref-okayama-u/offer/offerList_detail?tempSeq=52941

令和７年度研究成果発表会　発表の題名と要旨

発表：「岡山県での造林に適した早生樹種の選抜」

（林業研究室　専門研究員　阿部　剛俊）

コウヨウザンなどの早生樹は、用材利用やバイオマス利用を目的とした造林樹種として期待されています。県北部３箇所に植栽された、複数樹種の早生樹候補木の初期の生育状況を調査した結果から、岡山県での造林に適した早生樹種を選抜したので報告します。

発表：「ヒノキ大径丸太内部における材質の変動」

（木材加工研究室　専門研究員　野上　英孝）

県内のヒノキ人工林は高齢級化が進行し、今後は大径丸太の供給量の増加が見込まれます。ヒノキ大径丸太からは、柱や梁などの構造材に加えて、ひき割・板類など、様々な品目製造が可能となりますが、これらの木取りを検討する上で重要な、大径丸太内部における基礎的な材質の変動を調査したので報告します。

発表：「ＣＬＴの新たな分野での利用方法の検討」

（木材加工研究室　専門研究員　道場　隆）

ＣＬＴ（直交集成板）は、建築分野への利用推進に向けた体制は整備されてきていますが、建築分野以外への利用は限定されています。原木価格の安価なヒノキ小径木から採材した丸身付きラミナ（挽板）を活用することで、原木の歩留まり向上等を図りつつ、面材料の利点を生かした仮設橋資材等としての利用を検討したので報告します。

発表：「ドローン空撮による山火事跡地調査」

（林業研究室　専門研究員　牧本　卓史）

令和７年３月に岡山市及び玉野市で発生した山林火災跡地において、ドローン空撮を用いた巨石分布調査を実施しました。計画から実施、解析に至る調査の概要と、災害初動調査における当該技術の活用可能性について考察したので紹介します。

研究だより

『CLTの新たな分野での利用方法の検討』

一　はじめに

ＣＬＴ（直交集成板）は、ひき板（ラミナ）を繊維方向が直交するように積層接着した木質系の材料で、建築分野では様々な利用がなされています。一方、建築分野以外への利用は限定されていることから、幅広い分野へ利用拡大を図ることで、県産材の需要拡大に繋げていく必要があります。

そこで、ヒノキ小径木から採材した丸身付きラミナを活用することで、原木の歩留まり向上を図りつつ、面材料の利点を生かした仮設橋資材等としての利用を検討しましたので、紹介します。

二　実施内容

①ヒノキ丸身ラミナＣＬＴ（以下：土木用ＣＬＴ）

ＣＬＴを土木分野で使用する場合、用途によっては建築分野で求められる高品質な要件は必ずしも必要でないことから、ヒノキ小径木で採材したＪＡＳ規格外になるような丸身があるラミナを用いて、土木用として利用するＣＬＴ（幅1メートル、厚み9センチメートル、長さ3メートル：3層3プライ）（写真1）を製造し、試験を行いました。ヒノキを使用することで、薄くても強度のある土木用ＣＬＴが製造できます。

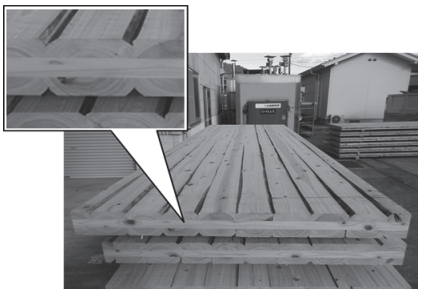


写真１　土木用ＣＬＴ

②曲げ強度試験

仮設橋として利用する場合、曲げ強度が重要となります。土木用ＣＬＴ（幅1メートル、長さ3メートル）に運搬車の後輪荷重が掛かった時を想定し、曲げ強度試験を実施しました（写真2）。その結果、支点間距離を1．5メートルとした場合、過去の試験結果も踏まえ、約12トンまで繰り返しに耐えられることが明らかとなりました。

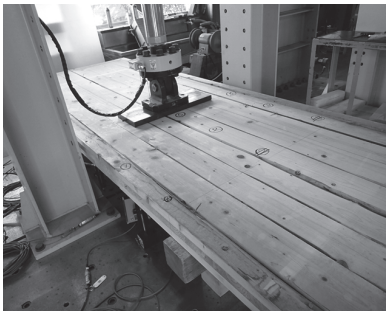


写真２　曲げ強度試験

また、野外設置を想定した腐朽試験として、森林研究所内の林地に、30センチメートル四方の土木用ＣＬＴを地表面からＣＬＴの厚み分埋設したものと地中に埋設したものを毎年掘り起こして調査しました。

腐朽については、地表面に置いた場合、4ヶ月経過した時点で地面と接している部分は発生しましたが、ＣＬＴの厚み分埋設したものや地中に埋設したものは1年経過してもほとんど発生していないことから、少しでも埋設すれば腐朽を抑制できると考えられます。

また、それとは別に、曲げ強度試験体を地表面に置いて1ヶ月ごとに腐朽状況を確認し、設置後4ヶ月、5ヶ月、7ヶ月で曲げ強度試験を実施しました。その結果、7ヶ月まで大きな曲げ強度の低下は起こらないことが明らかとなりました（図1）。

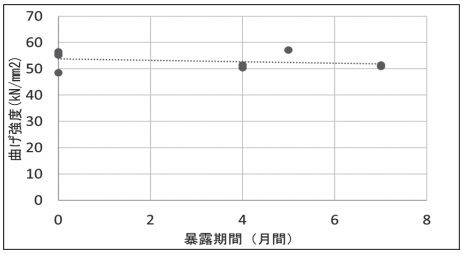


図１　暴露期間と曲げ強度

③仮設橋を想定した油圧ショベルの走行試験

作業道の仮設橋として5トンクラスの油圧ショベルで走行試験を実施しましたが、仮設橋の設置及び走行において問題はありませんでした。（写真3）



写真３　油圧ショベルの走行試験

三　おわりに

ＣＬＴは、今までにない木質の面材料であるため、土木分野等では様々な利用の可能性があります。

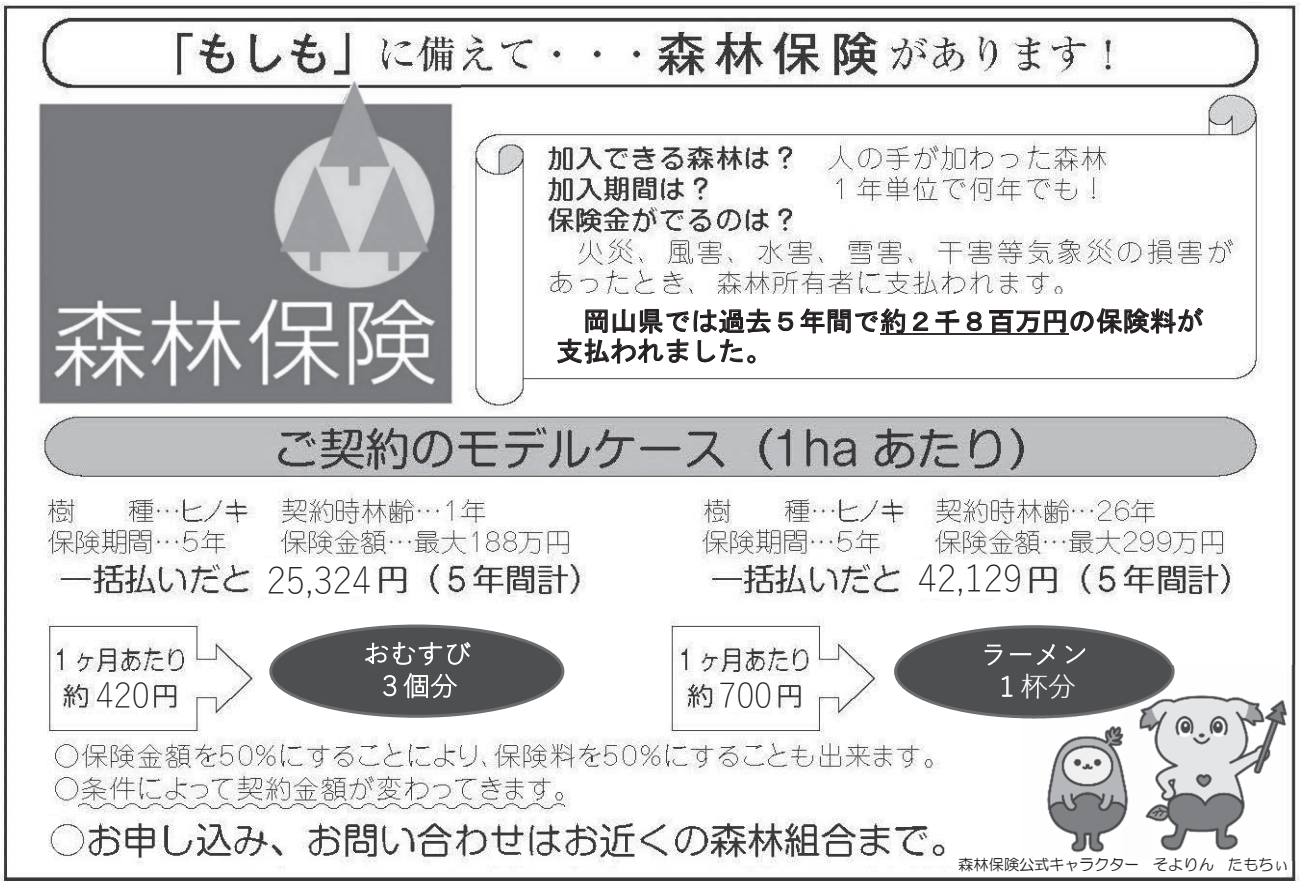
今後も、木質面材料の新しい用途を開発することで、県産材の需要拡大に繋げていこうと考えています。

（森林研究所木材加工研究室
専門研究員　道場　隆）

技能講習会の開催（2月～3月）

※詳細は申込先にお問い合わせください。

名　　称	会場	日　　程	申込・問合せ先
伐木（特別教育）	岡山	２月４～６日	林業・木材製造業労働災害防止協会 岡山県支部 TEL(086)236-7077 林災防岡山県支部 HP
※15名以上の受講者がある場合は、「伐木特別教育」又は「刈払機安全衛生教育」の特別開催（出張）を実施することができます。			
小型移動式クレーン運転	岡山	３月12～13日	一般社団法人 岡山県労働基準協会 TEL(086)225-3571
	新見	３月12～13日（サテライト）	
玉掛け	岡山	２月５～６日 ３月５～６日 ３月７～８日	
	津山	２月19～20日、３月23～24日	
	笠岡	２月12～13日	
	玉野	２月19～20日（サテライト）	
フォークリフト運転	岡山	２月４日、３月３日	
	玉野	３月６日（サテライト）	
	笠岡	２月17日	
	津山	２月３日、３月６日	
不整地運搬車	赤磐	２月16～17日 ３月23～24日	(株)ＰＣＴ （旧（株）PEO建機教習センター） 岡山教習所　TEL(086)956-2170





林　産　物　市　況



●木材（12月10日）

・出 荷 量　　約2,500㎥

単位：千円／㎥

樹種	長さ	径級	直材	小曲り	樹種	長さ	径級	直材	小曲り
杉	3ｍ	14～16	12	～	檜	3ｍ	15～16	23.5	19
		18～20	12	～			18～20	20	19
		22～28	12	～			22上	21	20
	4ｍ	20～22	11	～		4ｍ	16～18	21	20
		24～28	12	11			20～22	21	20
	6ｍ	16～18	—	—			24～28	24	22
						6ｍ	16	—	—
							18～20	—	—

概　況

杉概況		檜概況	
【3m】	【4m】	【3m】	【4m】
柱　材　横這い	中目材　横這い	柱　材　やや弱含み	柱　材　やや弱含み
中目材　横這い	元　木　横這い	中目材　やや弱含み	中目材　横這い
		元　木　横這い	元　木　横這い

資料：岡山県森連勝山木材共販所市況速報、価格は中値

●製材 (12月)

価格：円／㎥

樹　種	寸　　法	等級	区分	安値～高値(円/㎥)	備考
スギ	正角 3ｍ　10.5cm角	特等	K	70,000 ～	
	正角 3ｍ　12cm角	特等	K	65,000 ～	
ヒノキ	正角 3ｍ　10.5cm角	特等	K	80,000 ～	
	正角 3ｍ　12cm角	特等	K	75,000 ～	
	正角 4ｍ　10.5cm角	特等	K	80,000 ～ 85,000	
	正角 4ｍ　12cm角	特等	K	～75,000	
マツ	平角 4ｍ 10.5～12cm×15～18cm	一等	K	100,000 ～	
米マツ	正角 3ｍ、4ｍ 10.5cm角	特等	G	91,000 ～	
	平角 3ｍ、4ｍ 10.5×15～21cm	特等	K	101,000～	
北洋アカマツ	タルキ 4ｍ　3.8cm角	特等	K	120,000 ～	
ホワイトウッド	間柱 3ｍ 3.0×10.5cm	特等	K	93,000 ～	

注１：価格は、岡山県内の市場の相場を参考とした。
注２：区分のＫとは人工乾燥材、Ｇとは未乾燥材のこと。

林業機械のご購入・修理・買い替えのご相談は
美津吉商事株式会社
岡山県津山市一方194／TEL 0868-23-2255
≪津山・真庭・倉敷・鳥取・倉吉≫
https://www.mitsuyoshi.com
イワフジ　ハスクバーナ　ゼノア
新ダイワ　共立　シングウ　大橋
ＳＴＩＨＬ　マキタ　ファナー　他
確かな技術と
製品で
作業の安全性を
サポートします！
お近くのお店へ
お気軽に
ご相談ください。

「緑の募金」ご協力をお願いします
緑の募金で進めようSDGｓ（持続可能な開発目標）
募金期間
春のみどりの月間
4月1日～ 5月31日
秋のみどりの月間
10月1日～10月31日
口座振込は
こちらへ
ゆうちょ銀行　00230-3-144752
※窓口では手数料がすべて免除となります
中国銀行岡山駅前支店　普通1852041
トマト銀行岡山駅前支店 普通1027972
寄付金に対する税の優遇措置が適用されます。
公益社団法人 岡山県緑化推進協会
岡山市北区錦町１－８　TEL・FAX (086)221-9511

林業機械
中古林業機械
売ります！買います！
林業機械
HITACHI
日立建設機械
油圧ショベル
Logisnext
三菱ロジスネクスト
フォークリフト
STIHL
チェーンソー
各種林業アタッチメント
KESLA　NANSEI
MAFUJI　MORooka
各種機械のレンタル・修理も承ります！
富士岡山運搬機株式会社
林業機械
本社　岡山県津山市津山口111-1　TEL：0868-24-3211
新見　岡山県新見市石蟹267-9　TEL：0867-76-9077
岡山　岡山県岡山市中区江崎84-1　TEL：086-277-5100
鳥取　鳥取県鳥取市南栄町33-15　TEL：0857-50-1985

おかやま森づくり県民税

情報発信の取組

県では、森林の働きや林業の役割、おかやま森づくり県民税について、広く県民に知っていただくため、おかやま森づくり県民税を活用して、情報発信に取り組んでいます。

【イベント等への出展】

県民が参加するイベント等へ出展し、パネル展示やリーフレット等の配布、ヒノキの箸づくり体験、おかやま森づくり県民税に関するアンケート等を行っています。



おかやまSDGｓフェアへの出展

今年度は、おかやまSDGｓフェア、おかやま木材フェスティバルのほか、計9件のイベント等で情報発信を行いました。（令和7年12月現在）

【ポスター等の作成・配布】

おかやま森づくり県民税を活用した事業のPRを目的として、ポスターやリーフレットを作成・配布しています。

作成したポスター等は、前述のイベント等で配布・展示するなど、県民の目に触れる機会を設けることで、税の使い道について広く周知を図っています。



おかやま森づくり県民税事業ＰＲ用リーフレット

（林政課　普及指導班）

ー 安全・人と自然・調和 ー

美林を育てる

〔林地除草剤〕 ザイトロン微粒剤・ケイピンエース

造林木を野生動物の食害から守る

〔野生獣類忌避剤〕ランテクター水和剤・コニファー水和剤

〔幼齢樹保護カバー〕くわんたいⅡ　　**〔樹皮食い防止〕**バークガード・美樹巻夫

〔樹幹注入剤〕 マツガード・他　　**〔野生草食獣侵入防止〕**防獣ネット・他

お問い合わせ申込みは県森連・森林組合へ

販売：日植アグリ株式会社　TEL.086-292-5525

販売元：大同商事（株）大阪営業所　TEL.06-6384-1288

編集後記

新しい年を迎え、皆様いかがお過ごしでしょうか。

昨年、林野庁主催の「福島の森と木の親子体験オンライン教室」に娘たちと参加しました。

なめこ栽培キットが自宅に届き、キノコが苦手な娘たちと栽培を開始。順調に育ったなめこを収穫して味噌汁にしたら、おいしいと言って食べてくれました。

「キノコは苦手だけど、じいじの（原木）シイタケと、なめこは美味しい。」と娘たち。実家でのシイタケの駒打ちや、なめこ栽培キットの体験を通じて、苦手なものが克服できているのではないかなと思います。

本年も、どうぞよろしくお願いいたします。そして、皆様にとって笑顔あふれる一年になりますように。

（編集者Y）



なめこ栽培キット
（1回目の収穫前）

○事務局では、会員の方から森林・林業に関する質問や疑問、イベント情報等、身近な話題の投稿をお待ちしています。

【問い合わせ・送付先】

〒701-1202
岡山市北区楢津491-1
（岡山県森林組合連合会内）
☎086-236-6530

林声

令和八年一月一日（第五〇五号）
（隔月一日発行）

編集
発行　〒701-1202 岡山県森林組合連合会内　岡山県林業改良普及協会
岡山市北区楢津四九一―一

森林・林業施設の紹介

総社市役所新庁舎

令和７年２月に竣工した総社市役所新庁舎について紹介します。

新庁舎の建設は、後述する３つのコンセプトを掲げ、総社地域の特色を取り入れながら基本設計が策定されており、内装材に総社市産木材を使っていることもそのひとつです。

使用箇所は、エントランスホール天井、総合案内カウンター、階段及び庁舎の中央に位置する吹き抜けの手摺、議場等、訪れた方々の目に入りやすい所に配置され、木材の持つ柔らかな温かみを感じてもらうことができる庁舎となっています。

市産材の利用には、備中南森林組合が関連団体（市・森林所有者・木材加工業者等）をコーディネートして実現したもので、他の地域で同様の取組をする際のモデルのひとつになると考えています。

また、木製品を目にする機会が増えることで少しでも県産材の利用拡大につながることを期待しています。



エントランスホール



議場天井

○コンセプト
・総社愛が凝縮した庁舎
・災害に強く総社市民を守るたくましい庁舎
・全国屈指の福祉文化先駆都市を具現化した総社市民に寄り添う庁舎

○建物概要：ＲＣ造一部鉄骨造８階建（一部４階建）

○延床面積約１４，４２８平方メートル

○市産材使用量２５．８９立方メートル（ヒノキ１８．１１立方メートル、スギ７．７７立方メートル）

（倉敷普及指導区　古谷　優平）

おかやまの木で家づくり支援事業
助成金額：最大３０．４万円／戸
助成対象者：
①県内で認証材を４㎥以上使用して新築する住宅（３５０戸程）
②　〃　〃　民間非住宅（５０件程）
③　〃　１㎥以上使用して改修する住宅（１００戸程）
詳細はこちら　↓
http//www.kaiteki-kinoie.or.jp/subsidy.html
一般社団法人 岡山県木材組合連合会
〒700－0902 岡山市北区錦町1－8（岡山県木材会館内）
TEL (086) 231－6677　FAX (086) 232－7549

防腐技術と加工技術で、人と森と未来を繋ぐ
公園修景施設・土木用資材
防腐処理・ログハウス・デッキ
さんもく工業株式会社
〒702-8045 岡山市南区海岸通2丁目6番3号
TEL 086-262-0137(代)　FAX 086-262-0130

緑あふれる環境づくり
株式会社 山都屋
本社　〒703-8273 岡山市中区門田文化町２丁目11番51号
TEL (086) 272－2161　FAX (086) 272－2142
http://www.yamatoya-net.com
大阪営業所　津山営業所　水島営業所

優良種菌で確かな収穫
もりのたねごま
◆シイタケ，ナメコ，ヒラタケ等の品種の選定及び栽培管理についてなんでも御相談下さい。
製造総発売元　森産業株式会社
岡山営業所　岡山市北区辰巳46－104
TEL 岡山(086)805－7033(代)

この用紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。
認定番号 K0301090